

$t$  を正の実数とする.  $t$  に対して, 複素数  $\alpha = 2 + ti$  とし,  $\alpha$  の共役な複素数を  $\bar{\alpha}$  とする. 方程式  $z^3 = -8$  の解で虚部が正のものを  $\omega$  とする. 複素数平面上の 3 点を  $A(\omega)$ ,  $B(\alpha\omega)$ ,  $C(\bar{\alpha}\omega)$  とする. 次の問いに答えよ.

- (1)  $\omega$  を極形式で表せ. ただし,  $\omega$  の偏角  $\arg \omega$  は  $0 \leq \arg \omega < 2\pi$  とする.
- (2) 線分 AB, AC の長さを  $t$  で表せ.
- (3) 3 点 A, B, C を頂点とする  $\triangle ABC$  の外接円の半径を  $r$  とする.  $t$  が  $r$  正の実数全体を動くとき,  $\frac{r}{t}$  の最小値とそのときの  $t$  の値を求めよ.

(17 年 同志社大 政策・文情・生医・スポ 2)

$$(1) \omega = 2 \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right)$$

$$(2) AB = AC = 2\sqrt{1+t^2}$$

(3)  $t = 1$  のとき, 最小値 2 をとる.

### 【チェック・チェック】

(1)  $z^3 = -8$  は極形式の形で解いてもよいし, 解いてから極形式に直してもよいでしょう.  
 (2), (3) 3 点は A, B, C は  $t$  で表されるので, 3 辺の長さは  $t$  で表すことができます. 二等辺三角形であることを用いると角の情報もすぐに得られます. 外接円の半径については正弦定理を利用しましょう.

#### 【解答】

(1)  $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$  ( $r > 0, 0 \leq \theta < 2\pi$ ) とおく.

$$z^3 = -8 \iff r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta) = 2^3(\cos \pi + i \sin \pi)$$

両辺の絶対値と偏角を比較すると

$$r = 2, 3\theta = \pi + 2k\pi \quad (k \text{ は整数})$$

$$\theta = \frac{\pi}{3} + \frac{2k\pi}{3} \quad \text{かつ} \quad 0 \leq \theta < 2\pi \text{ より}$$

$$\theta = \frac{\pi}{3}, \pi, \frac{5\pi}{3}$$

虚部が正のものが  $\omega$  であるから

$$\omega = 2 \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right) \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

$$\bullet z^3 = -8 \iff (z+2)(z^2 - 2z + 4) = 0$$

より

$$z = -2, 1 \pm \sqrt{3}i$$

虚部が正のものが  $\omega$  であるから

$$\begin{aligned} \omega &= 1 + \sqrt{3}i = 2 \left( \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) \\ &= 2 \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right) \end{aligned}$$

である.

(2)  $\alpha = 2 + ti$ ,  $A(\omega)$ ,  $B(\alpha\omega)$ ,  $C(\bar{\alpha}\omega)$  より

$$AB = |\alpha\omega - \omega| = |\omega||\alpha - 1| = 2|1 + ti| = 2\sqrt{1+t^2} \quad \dots\dots(\text{答})$$

$$AC = |\bar{\alpha}\omega - \omega| = |\omega||\bar{\alpha} - 1| = 2|1 - ti| = 2\sqrt{1+t^2} \quad \dots\dots(\text{答})$$

← 極形式で表したい.

← この方程式なら直接解くこともできます. (上の解法なら,  $z^n = -8$  でも解くことができます.)

←  $A(\alpha)$ ,  $B(\beta)$  間の距離  $AB$  は  $AB = |\beta - \alpha|$  であり,  $z = a + bi$  ( $a, b$  は実数) のとき  $|z| = \sqrt{a^2 + b^2}$  である.

である。  
 (3) (2) と同じく

$$\begin{aligned} BC &= |\bar{\alpha}\omega - \alpha\omega| = |\omega||\bar{\alpha} - \alpha| \\ &= 2|-2ti| \\ &= 4t \quad (\because t > 0) \end{aligned}$$

BC の中点を M とすると AM=2 であり,  $\sin \angle ABC = \frac{1}{\sqrt{1+t^2}}$  である.

$\triangle ABC$  の外接円の半径  $r$  は正弦定理より

$$r = \frac{1}{2} \cdot \frac{AC}{\sin \angle ABC} = \frac{1}{2} \cdot \frac{2\sqrt{1+t^2}}{\frac{1}{\sqrt{1+t^2}}} = 1+t^2$$

$t > 0$  より相加平均・相乗平均の関係より

$$\frac{r}{t} = \frac{1+t^2}{t} = \frac{1}{t} + t \geq 2\sqrt{\frac{1}{t} \cdot t} = 2$$

等号は  $\frac{1}{t} = t$  のとき, すなわち  $t=1 (>0)$  のとき成り立つ.

よって,  $t=1$  のとき最小値 2 をとる. ……(答)

- (1) より  $\omega = 2\left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}\right)$  であり,  $z\omega$  は,  $z$  を原点のまわりに  $\frac{\pi}{3}$  回転し原点を中心として 2 倍した点を表す複素数である.

$A_0(1), B_0(\alpha), C_0(\bar{\alpha})$  とおく

$$\begin{aligned} A_0B_0 &= A_0C_0 \\ &= \sqrt{1+t^2} \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned} AB &= AC \\ &= 2\sqrt{1+t^2} \\ &\dots\dots ((2) \text{の答}) \end{aligned}$$

(3) についても,  $\triangle A_0B_0C_0$  の外接円の半径を  $r_0$  とおくと, 正弦定理より

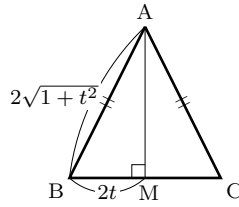
$$\begin{aligned} r_0 &= \frac{1}{2} \frac{A_0C_0}{\sin \angle A_0B_0C_0} \\ &= \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{1+t^2}}{\frac{1}{\sqrt{1+t^2}}} = \frac{1+t^2}{2} \end{aligned}$$

であるから,  $\triangle ABC$  の外接円の半径  $r$  は

$$r = 2r_0 = 1+t^2$$

である. 以下, 解答と同じ.

- $t=1$  のとき,  $\triangle ABC$  は  $AB=AC=2\sqrt{2}, BC=4$  であり, これは  $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$  の直角二等辺三角形である.



二等辺三角形であることを利用して  $\sin$  の値を得る.

← 外接円の半径ときたら, 正弦定理を考えましょう.

← 和の最小値を求めたい.

← 和と積の不等式として, 相加平均・相乗平均の関係式がある.

← 等号成立の確認を忘れない.

←  $\triangle A_0B_0C_0$  を 2 倍に拡大したものが  $\triangle ABC$  である.

